

橋渡し研究 着実に成果

北海道探索病理学シンポジウム

田中教授が現状報告

第四回北海道探索病理学研究シンポジウム「探索医療と病理が橋渡しする最先端がん臨床研究」が札幌市で開かれた。主催した北大探索病理学講座(寄付講座)の田中伸哉教授(腫瘍病理学分野教授)が探索病理学の現状を報告し、「多くの臨床・基礎の共同研究が今まさに始まり、さまざまな成果が出つつある」と強調した。

探索病理学講座は社会史特任准教授が、北斗病院腫瘍医学研究所で次世代シークエンサーを用いてがん遺伝子診断を行っているほか、十月に発足した北大病院臨床研究開発センターでも生体試料管理室(バイオバンク)室長に任命され、田中教授は基礎と臨床を橋渡しする共同研究に対する、同講座の貢献に期待と確信を表明した。

田中教授は、最先端がん臨床研究の現状を報告し、多くの臨床・基礎の共同研究が今まさに始まり、さまざまな成果が出つつある」と強調した。

田中教授は、探索病理学講座は社会史特任准教授が、北斗病院腫瘍医学研究所で次世代シークエンサーを用いてがん遺伝子診断を行っているほか、十月に発足した北大病院臨床研究開発センターでも生体試料管理室(バイオバンク)室長に任命され、田中教授は基礎と臨床を橋渡しする共同研究に対する、同講座の貢献に期待と確信を表明した。

田中教授は、探索病理学講座は社会史特任准教授が、北斗病院腫瘍医学研究所で次世代シークエンサーを用いてがん遺伝子診断を行っているほか、十月に発足した北大病院臨床研究開発センターでも生体試料管理室(バイオバンク)室長に任命され、田中教授は基礎と臨床を橋渡しする共同研究に対する、同講座の貢献に期待と確信を表明した。

田中教授は開会の辞で、世界のがん研究から医療への流れを解説するとともに、本道の先人たちによる歴史的貢献について言及し、「こうした流れの下に、現在の私たちがいる」と述べた。

現在、同講座の西原広



「基礎と臨床の共同研究が始まり、成果が出つつある」と、北大探索病理学講座の現状を報告した田中伸哉教授

